

テーマ

配慮を必要とする子どもへの手だてをどのようにするか

1 特殊学級の現状と実際

1組（情緒障害児学級） 2名在籍（3年男子，4年男子）

2組（知的障害児学級） 3名在籍（4年男子，5年男子，6年男子）

- ・ 仲良し学級で国語，算数を中心に学習し，その他は，交流学級で学習している。
- ・ 週1時間以上は仲良し学級同士の交流を持つようにしている。
- ・ 週1時間，仲良し学級だけの音楽（療育音楽）の時間を設けている。
- ・ 1組は情緒障害の子を抱えているので，交流へ行っても帰って来る場合の受け入れる体制作りをしている。
- ・ 特殊学級の児童について，個別の指導計画の形式を作成しているが，指導に生かすところまでは至っていない。
- ・ 子どもたちが，交流学級と仲良し学級といい雰囲気ですべて学習に取り組んでいる様子が見える。

2 特別支援教育の現状と課題

- ・ 特別支援委員会（校内委員会）が十分に機能していないので，校内における全校的な支援体制の整備に努めたい。
- ・ 通常学級における「特別な支援を必要とする児童」の実態を把握し，個別の指導計画を作成の必要性を感じているが，まだ，実践できていない。

3 小・中連携による共同実践提案

- ・ 小学校から中学校へ継続的な支援をしていくことができるためにも特別支援委員会（校内委員会）を機能させる取り組みに努める。